

13 大森鐘島遺跡

おおもりかねしまいせき

所在地：福井市大森町字鐘島

調査原因：一級河川志津川河川改修工事

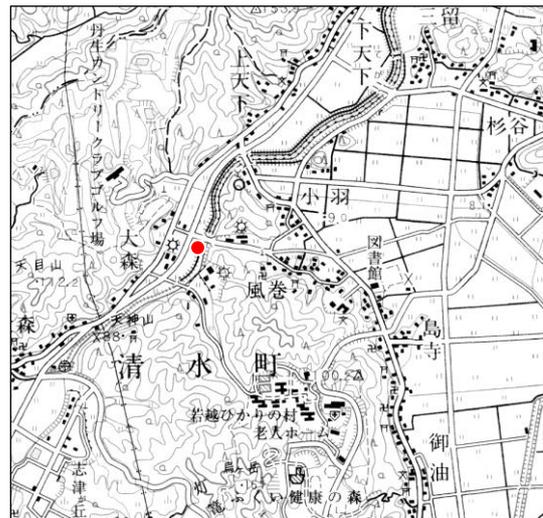
調査期間：令和4年5月～6月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：790 m²

時代：弥生時代後期、古墳時代前期

奈良時代、平安時代前期



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 大森鐘島遺跡は、丹生山地に源をもつ志津川が天目山と天神山の間を流れ出た後、明寺山丘陵に沿うように流れる地点の志津川左岸に位置します。過去には、旧清水町教育委員会や福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにより、志津川の護岸工事に伴うトレンチ調査や排水路部分に限定した工事立会を行い、大型の柱穴が見つかり、須恵器 硯や墨書土器、木簡などが出土しています。今回の調査箇所はその西側にあたります。

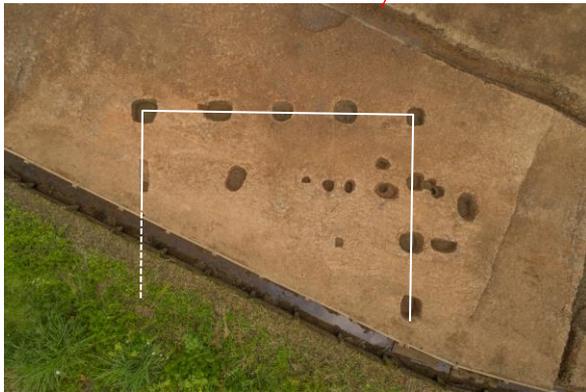
なお、本遺跡の東側にある明寺山には明寺山廃寺が位置し、旧清水町教育委員会による発掘調査の結果、平安時代前期の寺院跡と確認されています。

主な遺構 発掘調査の結果、調査区の全体に造営された掘立柱建物が7棟、この建物と並走する溝状遺構2条と柵列1条などを検出しました。掘立柱建物は、奈良時代のもの3棟、平安時代のもの4棟で、最も大きな柱穴は約130 cmを測りました。また、同時期以外の遺構として、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての溝状遺構1条と土坑1基を検出しました。

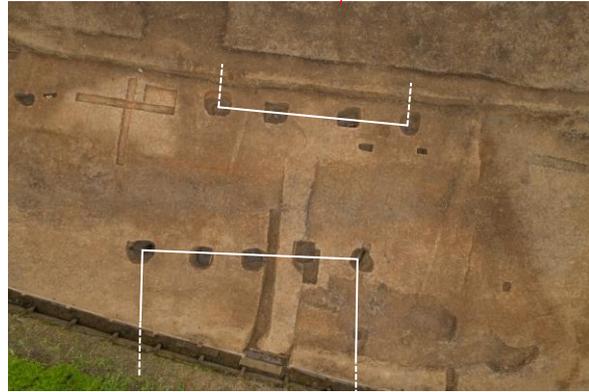
主な遺物 遺物は、弥生土器（後期）、土師器（古墳時代前期と奈良時代～平安時代前期）、須恵器（奈良時代～平安時代前期）、木製品、石製品が出土しました。出土した須恵器からは、「寺」と推測される墨書土器や転用硯など寺院との関連をうかがわせる遺物も確認されました。このほか、緑釉陶器や灰釉陶器も数点ですが確認しています。このように、掘立柱建物群や出土した土器の様子から本遺跡は、大規模な集落ないし寺院関連施設であることが分かりました。（川端 良招）



調査区全景（東から）



掘立柱建物（調査区外へ伸びる）



掘立柱建物（2棟が並列）



柱穴（長軸約 80 cm）と柱根（直径約 30 cm）



柱根（直径約 20 cm）と柱を支える礎板



遺物（須恵器の蓋と甕）出土状況



須恵器（墨書で「寺」？と記載）